

<東北地区納税貯蓄組合連合会会長賞>

## 「税金の大切さ」

平田村立ひらた清風中学校

3年 藤田 英里

小学校最後の陸上大会の朝だった。私が、出かける準備をしていると、曾祖母が倒れ親戚が集まり、救急車を呼ぶ騒ぎになっていた。私は、とても心配だったが陸上大会に参加し、帰ってきてから入院したことを聞いた。曾祖母は定期的に心臓病で通院していたので、病院へ行っているから大丈夫だと思い込んでいた。

しかし、検査の結果は大腸ガンだった。曾祖母は、体調の変化に気づいていたが、迷惑をかけないように我慢し、言わなかったのだ。また、高齢ということもあって、手術はしないで治療することになった。入院して衰弱した様子も見られたが、お見舞いに行くとき体調の良い日は、笑顔で「えりちゃんありがとう」と優しい言葉をかけてくれたり、家の事を心配してくれたりした。私は、元気になって家に戻って来ることを願っていたが、その願いもむなしく曾祖母は3ヶ月後、亡くなってしまった。

そんな曾祖母が何よりも心配していたのが医療費だった。曾祖母が医療費のことを口に出す度祖母が言っていた言葉を耳にする。

「ばあちゃんは心配しなくていいんだよ。早く元気になってね」

しかし、私は多種多様な検査、何本もの点滴、入院費など多額な金額を払わなければいけないと考えていた。そこで、母に尋ねると母は教えてくれた。高齢者医療制度というものがあるとのことを。それは、老人が治療を受けやすくすることを目指したもので70歳以上の高齢者が入院した場合、一部を負担すれば、ほとんど無料で治療が受けられるのだそうだ。曾祖母は70歳を超えていたためその制度が受けられたのだ。また、驚くことにその全てが税金によって補われていることも母は教えてくれた。消費税、所

得税、法人税、保険税など様々な税金の話を耳にしたことがあったがその税金がどのような形で使われているかは知らなかった。曾祖母の命は残念ながら消えてしまったが、曾祖母を救ってくれた税金に私は感謝し、納税は私達が安定した生活をするうえで大切なことだと知った。

私は、曾祖母が元気だった頃を思いだした。私が学校から帰ってくると、いつも笑顔で話しかけたり、学校行事での出来事も興味深く聞いたり、優しく接してくれたことが今でも忘れられない。

曾祖母は、3ヶ月間の闘病生活を終え亡くなった。その3ヶ月の間、税金が曾祖母と私達家族を支えてくれた。テレビで見ていたことが、現実に目にみえる形となった。この税金に感謝することを忘れず、将来は進んで税金を納められる人間になりたいと思う。

そして、私が老人になった時、今よりもさらに素晴らしい制度になっていることを期待したいと思う。